



大森まちづくりセンター雛人形展



目次

- P1 まちづくりコーディネーターの令和5年度の取組について
- P2 対談(浜田市議会協働のまちづくり推進特別委員会)
- P3 三保地区の買い物・交通課題への取組について
- P4 関係機関連携会議、まちづくりCNのつぶやき

まとめ まちづくりコーディネーターの令和5年度の取組について

①まちづくり推進委員会の設立

市内の5か所においてまちづくり推進委員会の設立に向けた会議等を定期開催(年間約70回)しました。地域の皆さんと多くの意見交換を行い、現時点で令和5年度中に1か所(瀬戸ヶ島町)、令和6年度中に2か所(大辻町、黒川町)の設立が決定しています。



②まちづくり活動推進

6月から新たに「まちづくりコーディネーター派遣申込」の仕組みをつくり、オンラインから申し込みをできるようにしました。結果、地区まちづくり推進委員会・まちづくりセンターから100件以上の依頼があり、よりきめ細やかな対応に繋がりました。



③コーディネーター活動情報発信

SNS及び紙媒体を活用し、情報発信に取り組みました。SNSは投稿頻度を増やしたことにより、多くのフォロワー数獲得に繋がりました。まちづくりコーディネーター通信については、計画どおり年4回発行し、多くの方に読んでいただけるよう配布先を増やしました。



令和6年度以降の方向性

これまでの3本柱の取組は継続しつつ、これまでの活動の中で見えてきた課題である「地区や地域を越えた連携づくり」を大きな柱とし、引き続き協働のまちづくりの推進に取り組みます。

協働のまちづくり推進特別委員会元委員長と対談しました！

提言書「協働のまちづくりの推進について～できる人が、できる時に、できる事を～」を市に提出された浜田市議会協働のまちづくり推進特別委員会元委員長の西田議員と、現在の取組や、これからコーディネーターに求められること等について意見交換を行いました。

浜田市議会協働のまちづくり推進特別委員会

協働のまちづくりの推進について調査及び研究を行うとともに、市に対し必要な意見及び提言を行うことを目的として、令和4年3月に設置。
委員同士の会議だけでなく、市内の地区まちづくり推進委員会やまちづくりセンターと意見交換を行うと同時に先進地視察等幅広く活動をし、令和6年2月に提言書「協働のまちづくりの推進について～できる人が、できる時に、できる事を～」を市に提出。
所期の目的を達成したことにより、令和6年3月に解散。

西田議員

令和4年に特別委員会を設置した際、何から取り組むか、協働とは何か、ということ委員内で共有するために、市内すべてのまちづくりセンターをまわり、意見交換を行った。
その後、まちづくりコーディネーターの皆さんとも意見交換を行ったが、コーディネーターの皆さんの苦労は大変だったと思う。



佐々木

自分は浜田地域において地区まちづくり推進委員会の設立を進めるということで、令和3年度から続けている。まちづくりコーディネーターの制度が始まった当初、他の地域から厳しい目を向けられていたことは自覚していた。



設立を支援する中での課題は、構成町内の役員の方々が毎年度変わられるため、その度に一からのスタートになってしまうこと。

今は、「まず立ち上げてみる。そしてそこから動き出す。」という考え方で支援をしている。立ち上がった後も、しばらくは伴走を続ける必要があり、まちづくりが軌道に乗るためには10年程度の期間がかかるのではないかと考えている。

吉本

自分の担当地域では、地区まちづくり推進委員会の歴史が長く、自立した活動をされているので、まちづくりコーディネーターとしての伴走支援の関わりしりが課題。

先日、他自治体で開催されたフォーラムに参加したが、「人」に焦点をあてており、まちづくりは、人づくりであるということを再認識した。

地域を越えて相互に連携し、それぞれで活躍されている人が繋がる機会づくりに関わっていききたい。

西田議員

まちづくりにおいては、大きさや形は違うが、市民一人一人が歯車である。それらを組み合わせるためには、間に入る歯車が重要であり、まちづくりコーディネーターには、その役割を担ってもらっていると思う。皆さんのモチベーションが下がらないよう、議会としても支援ができればと考えている。



地域活動・福祉 買い物・交通課題への挑戦！！(三隅町三保地区)

『地区内で唯一残っていた商店が、昨年6月に閉店しました。地区のおばあちゃん達がよく行っていた商店が無くなってしまい、「おばあちゃん達は、これからどこへ買い物へ行くんだろう。何とかしてあげたい。」という思いがこの取組のはじまりでした。』

そう話されたのは、三保まちづくり委員会の久保田会長。令和3年度から会長へ就任されました。

三保まちづくり委員会では、こうした課題を解決するための第一歩として、3月26日(火)に、初の試みとなる「すまいる三保マーケット」を開催されました。あいにくの天候ではありましたが、70人以上の住民の方が来られ、初めての取組は大成功となりました。



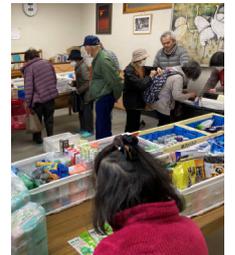
「すまいる三保マーケット」の実施のきっかけとなった商店の閉店以前から、地区内の交通課題解決に向けて「あいのりタクシー制度」を活用して交通支援に取り組んでおられ、あいのりタクシーの実施の際には、民生委員が把握されている交通手段に困っておられる高齢者等を対象にアンケートを実施し、住民の意見の反映に努められています。

「とにかくやってみよう！」をモットーに、令和5年11月にトライアルへの送迎をあいのりタクシー制度を活用してチャレンジし、利用者の「またやってほしい！」という声が後押しとなり、12月から月1回～2回の送迎を行われました。

そうした中で、「地区外に出かけるだけでなく、地区内で買い物ができる仕組みができないだろうか？」と考え、三隅町岡見地区のわくわくマーケットや宇野町のグリーンコープの取組の視察を経て、「すまいる三保マーケット」の開催に至りました。

『この3月で、地区内の高齢者会が解散となった。すまいる三保マーケットが、サロンの場・いこいの場となり、普段なかなか外に出られない方が買い物や交流ができるきっかけになれば嬉しいです。』

三保まちづくり委員会の挑戦は、はじまったばかりです！



協働 社会福祉協議会・西部県民センター連絡会議への参加をスタートしました!

まちづくりコーディネーターとして地域の方々とお話をする、「町内での困りごとがあった際に、どこに話していいかわからない」や、「前回別の課の職員に同じことを言ったのに、また同じことを言わなければいけないのか」といった声をよく聞きます。



こうしたことの原因のひとつに、組織内の横の連携不足があるのではないかと考え、令和6年1月より、島根県西部県民センターが主催する「浜田市・浜田市社会福祉協議会・西部県民センター連絡会議」への参加をスタートしました。



この参加は横の連携づくりの第1歩と捉え、地域の方々に必要なコーディネーターを目指していきたく思います。

コーディネーターのつぶやき

春の海 終日のたり のたりかな

3月の日本海は、まだ寒く、終日のたりのとりのたりかなというには少し早いのですが、気まぐれにのたりのたりの日があります。そんな時、浜辺に行くと打ち上げられた海藻と一緒に貝殻が寄っています。

幼少の頃、私のおじゃみ（お手玉）は大きいけれど軽かったのを覚えています。中身は浜辺に寄ったネコガイの貝殻でした。

あれから半世紀が経ち、現在でも浜辺に行って良い貝殻を見つけ、貯まればおじゃみを作ります。ですが、当時に比べると砂浜と貝殻が少なくなり、海藻にマイクロプラスチックが混じっています。時代と共に、海の環境が変わっていることがわかります。

次はいつ浜辺に行けるだろうか。紫外線と花粉対策を万全にして、のたりのたりの天気を待とう。

吉本 美和子



通信へのアンケート



左の二次元コードを読み取り、本通信へのご意見をぜひお聞かせください。来年度も引き続きよろしくお願いたします!



浜田市地域政策部
まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9204

0855-25-9007

(CN執務室)

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 manabi@city.hamada.lg.jp